

平成16年 10月1日 No.136  
 〒491-0041 一宮市文京1丁目4-6  
 ☎ 0586-73-8707 FAX 0586-73-8870  
 メールアドレス magokoro@owari.ne.jp  
 ホームページ http://www.owari.ne.jp/~magokoro/

# まごころ

=ともに生きる暮らしをめざして=  
 特定非営利活動法人  
 尾張地域福祉を考える会まごころ  
 まごころ 訪問介護事業所

## 支援費制度による

### NPO法人まごころ児童デイ

子供達に元気な未来が開けるよう

138タワーへみんなで出掛けました。

その時の子供達とまわりの風景。

その①

木製遊具の中央で立ちはだかって動かない自閉症のDちゃん。自閉特有の手を振りかざしている。その前には、そこを通り抜けたいと小学生の男児が困惑しながら、でもじっと待っていてくれる。

その②

ピサニの迷路でがんとして動かないダウン症のNちゃん。同じダウン症のT君が一生懸命Nちゃんに先に進むことを身振り手振で説得している。言葉にはならない大きな声で二人が話している光景をみながら、スタッフは同じようにしゃがみこんだ。「まあいいか、しばらくここで3人お話しするか」というと二人がハハ・・・と笑い声になった。

その③

偶然知り合いの方とすれ違った。「なんと明るい顔ばかりねー。驚いた」と漏らされた。障害をもっている児童へのイメージを勝手に作っておられたよう。

◇ ◇ ◇

私達は知らないことが多すぎる。かわってこなかったから。障害を持つ人達がいることも分からないかもしれない。

「多くの人の集まる場所は避けて来ました。皆に迷惑をかけるから。」と言われるお母さんの言葉が重い。

みんなが向き合う用意がなければ、普通に暮らしていけない。そんなことを考えて、来年2月20(日)に、自閉症の青年が街で築く人間関係を描いたドキュメンタリー映画「自転車でいこう」を開催します。ぜひ皆さんみて下さい。

## 《お知らせ》 一宮市委託講座 家族介護講座を開催します

テーマ「寝たきりを起こそう！」  
 真正面から座ってテレビを見よう  
 ベッドから車椅子へそして歩こう

日時	内容	講師	場所
11/5(金) 10:00~12:00	家で生き生き ～高齢者も家族とも自立への挑戦～	中日新聞生活部 記者 高間隆氏	スポ文
13:00~15:30	施設見学 在宅へ戻るための老人保健施設		日進市
11/8(月) 10:00~12:00	福祉用具を使って寝たきりを起こす テレビを座って真正面から見よう ベッドから車椅子へ、そして歩行	(株)モリト	スポ文
13:00~15:00	排泄を考える 「おむつをするとはどういうことか」	NPO法人まごころ	スポ文

寝たきりは日本の造語といわれています。寝かせきりを止めるためにどうすればいいのでしょうか。家族も自身も起き上がることに挑戦。みんなで考えます。大勢の皆さんにご参加いただきたいと思います。



—児童デイ—  
 9月利用状況  
 開所日 17回  
 利用者 167名  
 .....  
 まごころ児童  
 デイの内容は  
 別紙児童デイ  
 ニュースをご  
 覧ください。

## まごころふれあい祭り開催

2004年11月7日(日)午前10時~午後3時

NPO法人まごころ広場、九品地リハビリ公園

楽しい、わくわくする催し物いっぱい

—子供たちの顔が輝きます。

お父さんも一緒にどうぞ!

みんなで「カリンバ指ピアノ」を作ってみます

公園で手作り楽器をさわって

音を楽しみ/演奏してみます

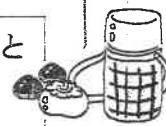
模擬店(みたらし、フランクフルト、カレーなど)

ゲーム/楽器演奏/歌を唄う/

素晴らしい作品展示(高齢者、児童の皆さん)

今年も地域の皆さんとまごころ関係者の皆さんとの「ふれあい祭り」を開催します。

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。



## 《報告》

# 映画「母のいる場所」上映会と講演会に

## 五百七十五名の皆さんが参加

人は日々老いる  
 でも、人は最後まで人と共に生きたい

さる、九月十一日(土)当会恒例の福祉映画と講演の集いを開催しました。映画「母のいる場所」は、介護する人される人が共に自分らしく、我慢をしないで生きるというテーマの映画でした。

生きる意欲と生きがい

助け合いが出来る

地域作りが

出来ることが望ましい

この映画監督である榎坪多鶴子さんは、自身がリュウマチを四十一年間かかえ車椅子の生活、現在は、痴呆のお母様をも介護、痴呆は知能が衰えている訳ではないと痴呆の母親の役割を考えながらの暮ら

「可能なことが一〇%でもあれば、可能なことだけを考えればそれは実現します。出来ないことは、誰かに助けてもらえばいい。今後、ともに生きるをテーマに映画をとりたい。」と意欲的に語られました。また、「生きる意欲と生きがいを持つよう、助け合いが出来ると地域作りが望ましい。今回の映画を取り上げて下さったこの会はそういうお考えだと思えます。どうぞ頑張ってください」と私達にエールを送って下さいました。最後まで監督の人柄とおりの温かい集いになりました。